

マブチ事件現場 街の防犯拠点に

千葉・松戸市に遺族寄付

千葉県松戸市のマブチモーター会長(当時社長)、馬淵隆一さん(76)が妻(当時66)と長女(同40)が殺されたうえ放火された事件からこの夏で7年。「安全安心な街づくりに役立ててほしい」と、馬淵さんから現場となっ

た敷地を寄付された市は、防犯防災の拠点になる「安全安心ステーション」を建設した。開所式が6日ある。畑が点在する静かな住宅地、同市常盤平6丁目で、事件は02年8月に起きた。「一気の毒で、しばらくショックが

続いた」という住民もいた。事件後、馬淵さんは引越した。敷地のうち約600平方メートルが更地にされ、07年1月、「迷惑をかけた地域の人が安心して暮らせるように活用してほしい」と市に寄付された。

市は町会などと話し合った結果、その思いに沿って、防犯防災の拠点施設を建てることにした。工事費約3千万円の半分は馬淵さんが出した。完成した安全安心ステーションは平屋建て約104平方メートル。貸し出し用の反射ベスト、青色回転灯、パトロール時に使うのぼり旗などを収める倉庫や、防犯講座に使う会議室がある。青パトと呼ばれる市のパトロール車の立ち寄り基地にもなる。災害に備え

た井戸もある。平日は市の職員が常駐し、将来は防犯相談にも応じる計画だ。建物の脇に小さな碑が建った。「寄贈者の思い」として、「再び痛ましい事件や火災が起らないことを願い」と書かれた銘板が埋め込まれた。花が好きだった馬淵さんの妻をしのぼうと、花壇も設けられた。(岡田三郎)



事件現場に完成したステーション。千葉・松戸市

マブチモーター社長宅殺人放火事件 02年8月6日、小型モーターの世界トップメーカーのマブチモーター(千葉県松戸市)の馬淵隆一社長(現会長)の妻(当時66)と長女(当時40)が自宅で殺され、現金や貴金属が奪われ、その後、放火された。刑務所内で

知り合った男2人が05年10月、強盗殺人などの容疑で逮捕された。被告の1人は07年11月に死刑が確定。事件や獄中での思いなどを綴った手紙を作家に送り、この作家がブログで公開。アクセスが急増するなど話題となった。もう1人は一審で死刑判決を受け上訴中。